

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 大学職員情報化研究講習会

私立大学、短期大学職員による教育・学習支援、人材育成支援の職能開発を推進するため、マネジメントに求められる情報技術活用能力の普及及び職員力向上の促進を図ることを目的に、基礎講習コースおよび応用コースによる大学職員情報化研究講習会を実施した。研究講習会の企画・運営・実施は、大学職員情報化研究講習会運営委員会（委員長：木村増夫、上智学院）を設置して対応した。以下に活動を報告する。

(1) 研究講習会開催計画の方針

大学が掲げる「学士力」を実現していくには、理事会、教員、職員が一体となって教育改革に取り組むことが不可欠であり、職員の役割は、コーディネート、マネジメントを通して教育改革を推進し、社会に貢献できる人材の育成を積極的に支援することにある。このことに対応するため、情報技術の活用による新しい支援の可能性と課題を講義や討議を通じて確認し、到達目標を設定して対応した。

グループ討議や課題解決に向けたディスカッション、成果発表などを段階に行うことで、ITを活用した先進的な実践事例に学び、創造的討議によって職員力の向上を図ることとした。以下にコース別に事業を報告する。

(2) 基礎講習コースの開催要項決定と準備

基礎講習コースのねらいとして、①大学改革と情報の活用、ICT環境の構築、ITを活用した教育支援・人材育成の理解、②大学職員としての役割や人間力の重要性についての理解、③グループ討議を通じての課題の発見、課題解決力の向上、研修後の人的ネットワークによる取り組みへの実践を計画した。

平成21年度基礎講習コースの開催要項

1. 日 程：平成21年11月11日(水)～13日(金)
2. 会 場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）
3. 対 象 者：私立大学・短期大学の職員（私情協非加盟校も対象）
4. 開催趣旨：

次世代を担う人材育成、国際化への対応や生涯学習など、大学が掲げる「学士力」や教育の質の保証を実現し、大学教育に対する時代の要求に応えていくためには、戦略的な計画立案と教育環境の構築が不可欠であり、大学職員には、大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集、分析、評価し、解決策を提案・実行する、情報活用能力と実行力が求められる。

本コースは、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した先進的な実践事例に学ぶとともに、参加者相互の自由な意見交流と創造的な討議を通じて、教育改革の推進や人材育成支援に必要な不可欠なコーディネート力やマネジメント力など職員一人ひとりの資質向上を目指すことを目的とする。

5. 講習の進め方：

「イントロダクション」では、大学の使命と、そこで働く大学職員に求められる能力や姿勢についての説明を行う。

「講義」では、大学の運営や学修支援等における情報活用事例を踏まえて、情報を活用することの重要性についての説明を行う。

講義後、グループに分かれてテーマを設定し、課題解決に向けてのディスカッションを行い、その成果をまとめて発表会を行う。

本コース参加の総括として、“自己のアクションプラン”を作成する。

6. 本コースのねらい：

本コース参加者は開催趣旨に基づき、次のような成果を修得することを目指す。

*大学職員に求められる能力（「職員力」）について理解する。

- *情報を活用することの重要性を理解し、情報活用能力を高める。
- *参加者間の人的ネットワークを構築する。

7. 講義概要：

【講義1】大学改革と情報の活用

講師：梶田 晶子氏（東海大学 総合情報センター情報システム開発課課長）

大学における情報環境や情報システムは、既に、教育・研究・社会貢献など大学の使命を遂行するためのライフラインとなっている。また、大学が組織として意思決定する場合には、教育・研究情報、教育環境、財務情報、自大学の強みと弱み、優れた教育実践事例といった情報を客観的、総合的に把握・分析し、戦略的な将来計画に繋げることも可能となった。本講義では、経営戦略や組織改革といった大学の意思決定にまで活用される情報システムについて、基盤としての情報戦略や情報環境、情報共有と協業等の視点から解説する。

【到達目標】

- *大学改革を支える情報戦略に求められる事項の理解
- *大学改革や大学運営に役立つ情報の見極め
- *情報を有効活用するために整備すべき事項の理解

【講義2】学士力の確保を支援する新たなICT環境の構築

講師：山崎 達朗氏（芝浦工業大学 学術情報センター事務部長）

平成20年12月に答申された「学士課程教育の構築に向けて（中央教育審議会）」を契機に大学においては学部教育とその支援について実践的な取組が急務となっている。現在、学士力の定義においてはリベラルアーツの側面と専門分野の修得の合理的な再編成が模索されている。その一方で、就職活動の早期化は学習活動を阻害する要因ともなりつつある。

こうした現状を踏まえ、本講義では高度に発達した情報通信技術の様々な要素を効果的に組み合わせることにより大学職員が実践できる教育活動の支援とは何かを考えたい。

【到達目標】

- *大学におけるICT環境構築事例の理解（芝浦工業大学事例）
- *学習成果を重視したe-Learningの構築と運用についての理解
- *ファカルティ・ディヴェロップメント、スタッフ・ディヴェロップメント活動の活性化を支えるICT基盤についての認識

【講義3】情報技術を活用した教育支援・人材育成支援に求められるもの

講師：斉藤 和郎氏（札幌学院大学 情報処理課長）

教育改革を推進する手段として、情報技術の活用は有効である。一方で、単に情報技術を導入しただけでは本来の目的を達成できないことも確かである。目標を明確化し、その到達度を適正に評価・分析し、次の改善につなげていく。こういったプロセスを教職員の組織的な連携によって展開し、例えば、「自分たちの大学も変わることができる」、「何よりも自分たち自身が変わることが大切だ」という気づきの中で人と組織がともに変革していくような場の形成が求められているのかもしれない。

本講義では、先行事例を参照しながら、情報技術を活用した教育支援・人材育成支援を展開する際に、わたしたち職員が備えるべき視点、担うべき役割について受講者と一緒に考えてみる。

【到達目標】

- *情報を戦略的に活用する際に備えるべき視点の獲得
- *教育改革への職員の関与について具体的なイメージの獲得
- *教育活動を評価することの意義について基本的な考え方の理解

8. グループ討議概要

第1ステージ：お互いを知るための自己紹介

グループとしてのテーマ（課題）設定

(例)「職員力」向上のための情報活用と自己研鑽

学生によりよい学修環境を提供するための情報・情報技術活用

戦略的な大学運営を支える情報基盤のあり方 等

第2ステージ：課題の分析と解決に向けてのディスカッション

第3ステージ：発表に向けて内容の絞込みと議論の掘り下げ

第4ステージ：まとめ、成果発表、アクションプラン

(3) 開催結果と次年度の計画

参加者は111大学234名であった。主体的に判断・行動できる職員力としての認識、大学改革及び教育改善に求められる情報活用力の重要性・協働化の理解について、以下の点を確認した。開催結果の詳細は資料編【資料14】を参照されたい。

① 大学職員に求められる職員力

職員として教育・学習支援、人材育成支援に積極的にかかわれるよう、職員が理解しておくべき職員の使命、職務へのかかわり方について基本的な認識を求めたところ、大多数の参加者から、私立大学がおかれている現状と職員としてもつべき資質を改めて知り、考えるよい機会となったこと。また、職員の役割について自己改革から出発することなど確認し、現場の業務に活かしたいとの理解が浸透できたことを確認できた。

② 情報を活用することの重要性と情報活用力の向上

「大学改革と情報の活用」、「学士力を支援するICT環境の構築」、「情報技術を活用した教育支援、人材育成支援に必要な視点・役割」の観点から基本知識と業務へのかかわり方について理解を求めたところ、情報活用の重要性については、「情報戦略」が大学を客観的に見るための手段として、問題解決の手段として欠かせないという理解が確認できた。また、情報活用能力の向上については部署間を越えて情報を共有すること、協働して問題の検討にかかわることの認識が不足していたことが確認できた。さらに、情報処理から情報を活用することの目標を定め、PDCAを意識して業務に取り組むことについて理解を拡大することが確認できた。

(4) 応用コース開催要項決定と準備

本コースは、情報化戦略の観点から大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集・分析・評価し、解決策を提案・実行できる情報活用力を身に付けるため、6つのテーマ別分科会で、ICTを活用した先進的な実践事例を踏まえて、参加者相互による創造的な討議を通じて、教育改革の推進や人材育成支援に必要不可欠なコーディネート力やマネジメント力などの資質向上を目指す。

また、研修終了後は、各分科会でレポートや最終成果物の作成、行動計画の起案等を行い、研修の成果を大学で活用できるよう、コミュニケーションを継続し、研修成果の持続的発展を高めることに配慮して開催する。

平成21年度応用コースの開催要項

1. 日 程：平成21年11月11日(水)～13日(金)
2. 会 場：浜名湖ロイヤルホテル (静岡県浜松市)
3. 対 象 者：私立大学・短期大学の職員で、大学の業務を1年以上経験した職員
(私情協非加盟校も対象)

4. 開催趣旨

次世代を担う人材育成、国際化への対応や生涯学習など、大学が掲げる「学士力」や教育の質の保証を実現し、大学教育に対する時代の要求に応えていくためには、戦略的な計画立案と教育環境の構築が不可欠であり、大学職員には、大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集、分析、評価し、解決策を提案・実行する、情報活用能力と実行力が求められる。

本コースは、ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した先進的な実践事例に学ぶとともに、参加者相互の自由な意見交流と創造的な討議を通じて、教育改革の推進や人材育成支援に必要不可欠なコーディネート力やマネジメント力など職員一人ひとりの資質向上を目指すことを目的とする。

5. 研修の進め方

本研修を進めるにあたって前提となる知識について、「大学改革と情報の活用」、「学士力の確保を支援するICT環境の構築」、「ICTを活用した教育支援、人材育成支援に求められるもの」

等をテーマに講義形式により学び、その後テーマ別分科会に移行し、ITを効果的に活用しながら学習支援活動に取り組む優れた実践事例に学び、教育改革へ向けた戦略的、実践的解決策を導き出す上で私たち職員に求められる視点について考えてみる。

6. 本コースで期待される成果

- ・大学教育を取り巻く環境の変化について認識を深めるとともに、今まで気づけなかった自大学の現状や課題を発見する
- ・これからの大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識を獲得する
- ・大学の情報化を推進しようとする際に向き合わなければならない人的、組織的課題を認識するとともに、これを解決する上での視点を獲得する
- ・ここで培った他大学職員との人的ネットワークを活用し、研究講習会終了後も自大学の課題解決にあたっての情報収集や意見交換を行う場を形成する

7. 全体の概要

① 趣旨説明

研修運営委員長より本コースの開催意図、大学を取り巻く様々な課題、社会が大学教育に求めること等について解説を行い、研修を始めるにあたっての基本的な認識を共有する。

② 講義

本研修を進めるにあたって前提となる知識について、「大学改革と情報の活用」、「学士力の確保を支援するICT環境の構築」、「ICTを活用した教育支援、人材育成支援に求められるもの」等をテーマに講義形式により学ぶ。

③ 事例研究

各大学が掲げる「学士力」を育成するため、学生たちの学びに対する意識の転換を図り、自主的、創造的な学習者へと変革を促す組織的な支援が重要課題とされている。ここでは、教員と職員が協働し、ITを効果的に活用しながら学習支援活動に取り組む優れた実践事例に学び、教育改革へ向けた戦略的、実践的解決策を導き出す上で私たち職員に求められる視点について考えてみる。

(事例)

創価大学 「自律的学習者の育成に向けた学習活動支援とFD活動」

関西大学 「ICTを活用した教育の国際化」

8. 実施分科会

- 第1分科会：学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用
- 第2分科会：教職協働で進める教育支援のマネジメント
- 第3分科会：大学広報におけるWebサイトの戦略的構築と差別化
- 第4分科会：学生の自立的な学びを支援する大学図書館の役割
- 第5分科会：情報活用の重要性と情報システム部門の役割
- 第6分科会：コミュニケーションツールを活用した学生支援体制の構築

(5) 開催結果と次年度の計画

参加者は160名(94大学、7賛助会員)であった。開催結果の詳細は資料編【資料14】を参照されたい。

応用コース参加者を対象に、大学に戻ってからの実践や態度について検証を行い、プログラムを精緻化する目的で事後評価アンケートを実施した結果、次のような意見があった。

- ① 職場に戻ってから、成果を学内で報告したり、アクションプランの作成を行ったり、数は少ないながらも学内でワーキンググループを作るなど、研修の成果を活かした活動を行った参加者など研修が具体的に活用されている。
- ② 事例紹介や分科会でのディスカッション、人的ネットワークを通じた意見・情報交換、研修会の狙いやテーマ設定が、自身の変化や職場での取り組みに結びついた。等の評価がある反面、取り組みに結びつかない要因として、研修成果を実践する場がない、同僚等から同意を得ることが難しいなどの意見もあった。
- ③ 研修成果を職場での取り組みに活かすには、研修のねらいやテーマ設定が問題意識やニーズに合致すること、上司や同僚の協力があること、OJT等による実践の場があることなどが必要不可欠であり、小グループの編成は大学規模より分割してはどうかなどの意見もあった。

5-3-2 FDのための情報技術講習会

本講習会は、教員の教育力の向上を目指して、ICTを活用した授業デザイン能力と授業マネジメント能力、教材作成能力の習得を図るための学外のFD事業である。

講習会の企画・運営・実施は、FD情報技術講習会運営委員会（委員長：山本喜一、慶應義塾大学）において対応した。以下に活動を報告する。

(1) 開催要項の決定と準備

- ① 本年度は、昨年度授業シナリオを中心にプログラムを組み立て実施したところ、パワーポイントの扱いが不慣れな参加者が多く、運営が円滑に進まなかったことを踏まえ、基礎能力のコースを22年3月の講習会と分けて、9月上旬に設定することで募集をしたが、参加者が予定の規模に達しなかったことから中止した。
- ② そこで、3月のプログラムは、パワーポイントやWebサイトに音声・映像を組み込む教材作成技術を目指すプレゼンテーションコース、教材に動画やアニメーションを掲載するアニメーション活用コース、学生の学習意欲を喚起する授業マネジメント力、授業デザイン力の習得を目指す授業シナリオ設計コースを設定し、開催要項を決定した。
- ③ とりわけ、パワーポイントについては、本協会が開発したeラーニング教材を事前に閲覧し、講習会当日までに技能の復習を呼びかけることにした。そのために運営委員会の委員に遠隔での相談・助言を委託し、事前講習を徹底した。
- ④ 講習後、授業での効果的な取り組みの実践例を参加者が共有できるようにすることでFDの持続的向上が図れるよう、参加者の情報交流サイトを設定し、支援することにした。
- ⑤ 以上の方針にもとづき、本講習会の事業価値を明確にするため、3日間の到達目標を設定し、その実現に向け周到な準備をして臨んだ。

平成21年度FDのための情報技術講習会開催要項

1. 開催日程：平成22年3月9日(火)～11日(木)
2. 会場：大阪経済大学(大阪市東淀川区)
3. 対象者：情報通信技術を活用した授業改善に興味のある私立大学の教員(助教含む。職員は対象外です。)

4. 講習会の概要

本講習会では、教員の教育力向上を推進するために、授業における情報通信技術活用力の向上を目指して、授業設計及び授業マネジメント、学習指導技術、教材作成等に関する技能や知識の習得を目的に以下の、3つのコースを設定しました。

5. コース別講習

【プレゼンテーションコース】

画像や音声等を組み込んだ教材をパワーポイント・Webで作成できるように、教材作成技術の向上を目指します。

※使用ソフトはpowerpoint2003/2007、Web作成用フリーソフトKompoZerとします。

※本コースを希望される方は、当協会のWeb上で実施しているeラーニング(無料)の内容を閲覧し、講習会当日までに基礎的なスキルの復習をお願いいたします。

[到達目標]

- 1日目：パワーポイント作成方法の基本的技術を習得
- 2日目：Webの活用方法と教材作成の応用技術を習得
- 3日目：グループ内のプレ・レビューを参考に教材の改良・完成

【アニメーション活用コース】

教材に動画やアニメーションを取り入れ、概念理解の形成を促進できるよう「動的な教材作成」の技術習得を目指します。

※使用ソフトはAdobe社のFlashとする

【到達目標】

- 1日目：アニメーション活用事例を参考に動的な教材作成技術の基本を習
- 2日目：動的素材を多用した実用的な教材の作成技術を習得
- 3日目：授業で実際に使用する教材の改良・完成

【シナリオ設計コース】

情報通信技術を取り入れた効果的な授業の設計と授業の進め方について、受講の動機付け及び授業参加意欲の喚起を含めて、授業マネジメントの観点から授業デザインの構築に必要な基本知識・技能の習得を目指す。なお、本講習後、本協会のWeb上で制作した授業シナリオの活用結果および問題点について参加希望者による相互交流を行い、改善に向けての事後講習を行う。

【到達目標】

- 1日目：表現力が豊富な教材のシナリオを作成し、授業作成運用技術を習得
- 2日目：実際の授業を想定したシナリオの作成とコンテンツの活用
- 3日目：授業シナリオの改良・完成

(2) 開催結果

参加者は、101名（62大学，8短期大学）であり、終了後のアンケートでは9割以上の参加者が、今回の講習会で問題の解決ができた。解決はできなかったが、今後解決の見通しはたとと回答している。以下に参加者のアンケート結果を掲載する。

アンケート結果

【コース別参加者】

- *プレゼンテーションコース……………35名
- *アニメーション活用コース……………45名
- *シナリオ設計コース……………21名

【参加者アンケート（全体）】

「今回の講習で、先生がかかえていた課題の解決を達成できましたか？」

- *達成できた……………39%
- *達成できなかったが、見通しはあった……………56%
- *達成できなかった……………5%

【プレゼンテーションコース：参考とすべき意見（抜粋）】

- * 本講習会は、「技術的向上」が目的だが、それと相まった講義の実践的進め方をもう少し取り入れてほしかった。
- * 講義の後に実習時間があり、各自PowerPointスライドを作成する流れはとてもよかった。できれば作業を同時進行で進められればもっと分かりやすかったかと思う。
- * パワーポイントの技量が一人ずつ違うために、事例設定は難しいかと思うが、基礎編～応用編というステップ設定をし、できるだけ多く練習してみたかった。

【アニメーション活用コース：参考とすべき意見（抜粋）】

- * テキスト、教材は適切であったので大変満足している。
- * 講師がとても親切でよかったが、受講者のレベルに応じた講座設定をしていただいた方がよりよかったのではないか。

【シナリオ設計コース：参考とすべき意見（抜粋）】

- * シナリオ設計からPPT作成までの技術的なことにも熟知していただければならぬので、他の2コースの内容も共通で話される部分があってもいいように思う。
- * 実技がメインの授業を担当しているので、流れて授業をしていた感があるが、今後は綿密にシナリオを組んで余裕を持った授業にしていきたい。グループ討議はもう少し時間があってもよいと思う。
- * 授業と企業や実社会の具体的な現場とをリアルタイムでつなぐ手法や、eラーニングの活用など参考になる点も多かったが、様々な手法の効用を実証的に分析しながら分類整理することやIT手法と成績評価との関連付け、それらを含めた全体としての教育効果の検証等、今後の課題へ向けての展望が十分ではないように思えた。